

2021-03-29：令和3年 第1回定例会（第5号）

「手話言語法」の制定を求める意見書について

[賛成討論]

○16番（野村羊子さん） 討論します。

「手話言語法」の制定を求める意見書について討論をいたします。

手話は、聾啞者にとって豊かな概念世界を自らの中に構築し、他者とのコミュニケーションを図る上で重要な言語と考えます。しかし過去、聾啞教育の中で手話を禁じられていた時期があります。そのため、ひそかに伝承されていくなどとしてきた経緯もあります。地域に根づいたいわゆる方言、地域手話は、日本国内各地にあります。地域に定着した地域手話は、聾啞者の日常生活を支えるものです。

一方、全国ろうあ連盟は、1969年から全国的に共通する標準手話の確定と普及に取り組んできています。現在は厚生労働省の委託事業として、新しい手話の提案も含め、年間200語の手話の確定をし、公開しています。手話を言語として認めることは重要ですが、地域で暮らす聾啞者の豊かな暮らしを支えるため、社会的包摂、多様性の確保のため、一方的な標準手話の押しつけにならないよう、十分留意することが重要だと考えます。

「手話言語法」制定に際し、標準手話を押しつけることなく、音声言語、口話法、手話等々、聾啞者の状況による選択が可能な環境整備も併せて求め、本意見書に賛成いたします。

2021-03-29：令和3年 第1回定例会（第5号）

補正予算（第1号）について

[反対討論]

○16番（野村羊子さん） 討論します。

補正予算（第1号）について、子育て世帯への給付金、低所得者のひとり親世帯の生活支援、PCR検査の助成については賛成します。出産応援金については、現金給付でないのは残念であり、ネットでの申込手続きに支援が必要な場合の支援を要望しておきます。

そして、新型コロナウイルスワクチンについては、そもそも開発時間が短過ぎ、実際の

接種開始後、アナフィラキシーショックや死亡例など、これまで長年活用されてきた様々なワクチンに比べて高い比率で副反応が発生しています。3月26日現在、コロナワクチンによるアナフィラキシー反応は181件報告されており、ブライトン分類1、2、3は47件で、100万回に81件という高い割合です。死亡報告は2件となっています。また、遅延性の副反応は未確認で、今後、報告される例が相次ぐのではないかと危惧しているところですが、1月の補正予算の議論でも述べました。

接種直後は痛みのみで、それが継続して数週間後に様々な発作を起こすなどして発症、劇症化していくのが、HPVワクチン、子宮頸がんワクチンの副反応被害の様態でした。長期的な副反応被害報告の受入れ体制を市でも取っておく必要があるということをおきたいと思えます。

さらにアメリカ疾病対策センター（CDC）や各州の保健当局は、副反応で仕事を休まざるを得ないことを想定し、同じ職場が集団接種で同時に打つのはやめたほうがいと提唱しています。今までとは全く違う様相を呈してきているのが、このコロナワクチンです。集団接種を実施するのであれば、万が一のための救急搬送体制、翌日以降の副反應對応の医療機関体制を整えておくことが必須であることを申し添え、繰り返しになりますが、長期的な安全性が確認し得ないワクチン、医療関係者の何人もが様子を見たいと言っているワクチンの接種を、市民に一律に推進することはできないため、安全性が確保し切れていないmRNAワクチンを、全市民対象に推進するための本補正予算に反対します。